

発行人
西原町役場
〒903-01
西原町字嘉手苅112番地
電話(09894)-5-4533
印刷
丸正印刷社

町の世帯・人口		6月の人口移動	
(60年6月現在)		出生	死亡
世帯数	6,269世帯	39人	5人
人口	21,477人	転入153人	転出81人
男	11,029人	婚姻14件	離婚5件
女	10,448人		

第35回社会を明るくする運動

盛況の普天間保護区大会

奥村所長が非行原因を明かす

犯罪の防止と犯罪者の更生に理解を深め、犯罪のない明るい社会を築こう、と普天間保護区実施委員会（平安恒政実施委員長）主催の第三五回社会を明るくする運動普天間保護区大会が、七月十三日午後二時から中央公民館で開かれた。会場には、保護司、P

TA、婦人会、老人クラブ、児童生徒など関係者約四百人が出席。
大会では、伊佐保護司会長の開会あいさつ、平安実施委員長のあいさつ、親泊町議会議長の来賓祝辞などがあつた。その中で平安実施委員長は「家庭での父親の權威の失

墜、カギツ子、受験競争、受験地獄、青少年の非行、校内暴力、家庭内暴力など世の中が暗くなっているのが皆が力を合わせて犯罪のない明るい社会をつくらうということ。この大会が開かれた。住民相

互の連帯感を高めながら明るく豊かな人間性を養い犯罪を防止し住みよい社会環境づくりに努めたい。また、そのために日夜活躍の保護司、更生保護関係の皆様に感謝し、今後なお一層のご尽力をお願いしたい」と激励した。
その後、玉城俊子（更生保護婦人会）、親泊輝明（町青年団体連絡協議会会長）の各氏による意見発表、作文・標語の優秀賞受賞の児童生徒六名の表彰式、引き続き、①明る

来年一月の完成を目指して

町民体育館第二期工、始まる

西原町民体育館新築第二期工事の安全祈願祭が、七月八日午後九時から字翁長の同敷地内で行われた。祈願祭には、

町四役、呉屋金秀鉄工（株）社長はじめ工事関係者約四十人が参加、工期内の安全を祈った。
祈願祭の後、懇親会が開かれ、席上あいさつに立った平安町長は「安全面には気をつけて頂き、工事がスムーズに運び、りっぱな体育館ができるよう頑張ってください」と工事関係者を激励した。その後小川助役の音頭による乾杯。そして呉屋社長が「工期内にすばらしい体育館が完成するように安全に気をつけて頑張ってください」と工事関係者を代表してあいさつした。

同館は、建物の延べ面積が四四一八平方メートル。海邦国体の

新年金制度あらまし

全国民に基礎年金を導入

国民年金

今回の国民年金法の改正の大きな目玉は、全国民に共通の基礎年金を導入したこと。基礎年金には、老齢基礎年金、障害基礎年金、遺族基礎年金の三つがあります。

1 老齢基礎年金

①老齢基礎年金は、法律改正施行日（昭和六一年四月一日）において六〇歳未満の人

2 障害基礎年金

①障害基礎年金は、被保険者が障害等級表に該当する障害

に適用されます。

②老齢基礎年金は、六五歳から支給されます。ただし、保険料納付の不足期間がある場合には減額されます。

③受給資格期間は、二五年以上の期間が必要です。

④障害基礎年金は、被保険者が障害等級表に該当する障害

事業主の皆様へ

雇用保険加入でむすぶ労使のきずな

事業を営み一人でも従業員を雇用した場合は雇用保険に加入しなければなりません。早目に加入手続きされますようお知らせします。

手続き及び問い合わせ先

那覇公共職業安定所
電話 67-6472

懇親会の席上で関係者を前にしてあいさつをする平安町長



社会を明るくする運動普天間保護区大会であいさつをする平安町長
＝関係者約400人が出席、中央公民館で

手をつなぎ 明るいくらしの輪をつくろう
(西原小6年 山城静香さん)

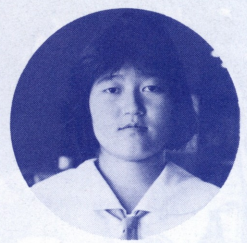
明るい町はぼくらの手で



西原小6年
新垣つよし君

「おはようございますの言える子。」
ぼく達、学校ではオアシス運動をとり入れ、あいさつのできる子、礼正しい子、はきはきた子をめざし、がんばっています。ぼくは、明るい町、きれいな町というのは、みんな、あいさつをして、思いやりの心で、緑を大切にしたいと思っています。

中学生活のあり方



西原中3年
金城育子さん

今、私達は、何の不安も抱かず学校に通い、中学校生活を送っています。極立った問題もなくある程度安定した学校生活を送っている人が送っているかのように見えます。しかし、本当の姿がそれである

てあげなければならないのに、大人が、こうだから、だめな町になると思う。

ぼくは、明るい町、きれいな町、緑が、いっぱいある町は、町の人、一人一人が、あいさつをして、人のことも、考え、思いやりの心をもっていれば、いつかは、りっぱな町が、できていると思います。

どのクラスにも、一人はいじめの対象になる人がおり、その人達は、誰にも言えず一人で行きたくて、多いと思うのです。

そして、中学生の喫煙、飲酒、暴力行為、私刑。
何故、中学生が、そんな事をしなくてはならないのでしょうか。同じ学校に通いクラスメイトになぜ違った仲間達の中に、差別は必ずあるのか。

要らない、と思うのです。しかし、やっている人が、現に身近にいるのです。その根元は、どこにあるのでしょうか。いつもは、普通通っている人が、だんだんと変わって行く。それは、服装に表われ、やがてはタバコ、酒、暴力、と悪化していくのです。しかし、いかに人の気を引こうと、目立つ行動をとっている人達に気づいて、意外と、寂しがりやなのではないのでしょうか。もつと考えると、いろいろと変わった面が、みえてくるかもしれません。

まず、服装などに変化が表れる前に、何かが、その人にあつたから、その人が行動で示すようになるのではないのでしょうか。学校でのできごと、主に友人関係、部活動での先輩、後輩問題、そして

家庭内での問題、いろいろなことがからんでくるとは思うのですが、そこで、その人を支えてあげられるのは、友人達ではなく、親であり、大人たちであるべきだ、と思うのです。友達であるより、話しをするのが、親であれば、絶対、早く立ち直るし、本人としても、安心だろうと思うのです。

振り返った時、誰もみていてくれない人がいないより誰かがみてくれている方が、安心します。それが、友人なら、考えなくてもよい事に気をまわし、気付いた時には感情のままに走っていた、などという事があるのではないのでしょうか。しかし、親であれば、どんな時にも、とても安心していられると思うのです。少なくとも、やられる側からやる側に、なんて思わ

社会教育の強化をめざして

分科会を以て諸問題を話し合う

第三回町社会教育研究大会

社会教育の諸問題を話し合うことにより各種団体の連帯を深め社会教育活動の強化を図ろう、と町教育委員会主催の第三回町社会教育研究大会が、六月二十九日午後二時

から中央公民館で開かれた。会場には、平安町長、与那嶺教育委員長、稲福教育長はじめ町婦人会、町P連、町子連、町老連などの関係者約百五十人が参加した。

大会では、①社会教育関係団体の強化と連携を深めるにはどうすればよいか(発表者「親泊輝明氏」)②青少年の健全な行動を形成するためには地域と家庭の取り組みをどうすればよいか(発表者「宮平ユキ子さん」)③子どもたちの学習意欲を高め、学力を向上させるためには、学校と家庭との連携をどうすればよいか(発表者「上里善孝氏」)など三つのテーマで分科会と全体



激励あいさつをする平安町長

会が行われた。

全体会の後、社会教育功労者・団体の表彰、平安町長の激励のあいさつ、ワンパク子供会(我謝)、ハッピー子供会(翁長)による余興などがあり、大会を盛り上げた。

最後に、水野益継琉球大学教育学部教授による講演「なぜわれわれは生涯学ばなければならないか」が行われ、成功裏に大会の幕を閉じた。なお、表彰を受けた個人・団体は次の通り。

- 【個人】安里貞雄(我謝)、比嘉昭幸(棚原)、石原佑哲(我謝)、福里重盛(翁長)、翁長綾子(幸地)、翁長正昌(幸地)、新川千代子(内間)、宮平昌信(我謝)、金城哲男(安室)、元田功(沖縄市桃)

町民体育館建築工事などを議決

第四回町議会定例会

昭和六十年第四回町議会定例会が六月二十六日から七月二日までの七日間の会期で開かれた。十五件の議案はすべて原案可決され、同意一件、承認二件、決議一件が行われた。

- ①昭和六十年年度町一般会計予算及び町特別会計予算の補正
- ②町社会教育委員会条例の制定
- ③町民体育館新築工事(建築、電気設備)、池田地区排水、固定資産評価審査委員

87期青年隊員募集

沖縄産業開発青年協会

趣旨 機械技術者として活躍しようとする青年、社会の中心青年とし活躍しようとする青年、海外へ移住しようとする青年達を集めて地域社会に役立つ青年を養成するため教育訓練を行う。

応募資格 (1)義務教育を終了した満二十五歳までの独身男子 (2)心身健全で共同生活を守りうる者。

訓練期間 昭和六十年九月三十日～六十二年三月二十日

申込方法 志願書、健康診断書を添えて各市町村長が市町村青年会会長又は出身校長を経

員(字翁長一三、仲宗根精恵氏)元町税務課評価係長、六九歳)の選任の同意案件も認められた。

家庭内での問題、いろいろなことがからんでくるとは思うのですが、そこで、その人を支えてあげられるのは、友人達ではなく、親であり、大人たちであるべきだ、と思うのです。友達であるより、話しをするのが、親であれば、絶対、早く立ち直るし、本人としても、安心だろうと思うのです。

振り返った時、誰もみていてくれない人がいないより誰かがみてくれている方が、安心します。それが、友人なら、考えなくてもよい事に気をまわし、気付いた時には感情のままに走っていた、などという事があるのではないのでしょうか。しかし、親であれば、どんな時にも、とても安心していられると思うのです。少なくとも、やられる側からやる側に、なんて思わ

由して東村字平良三八〇の一、社団法人沖縄産業開発青年協会あて申し込み下さい。

募集締切 8月27日(火)迄

なお、詳しいことは、沖縄産業開発青年協会(電話〇九八〇―四三二二―一八)か町産業課(電話五五〇―一三)にお問い合わせて下さい。

呉屋さんが最優秀に

町婦人主張大会が、六月二十二日午後、町社会福祉センターで開かれ、呉屋定子さんが最優秀に選ばれた。

呉屋さんは「国連婦人の十年に思うこと」と題して事務担任者の仕事を通してこれまでの地域での活動のようを紹介しながら女性の社会参加の必要性を訴えた。そのほか、大会では、伊川幸子、城間則子、呉屋トミ子、比嘉千代さんら四人も表彰をふるった。

中国視察研修報告(上)

長江大橋は南北を結ぶ大動脈

香港、北京、南京

はじめに

このたびの町村長中国視察研修は、五月十日から十日十一日(香港一泊)の日程で北京、南京、上海、福州、広州の順路で広域に亘り、五つの都市を見て回った。春の候というが、むしろ初夏の感じ

ドさんの案内に従って名所や旧跡を見て回り、または、現地要人の方々等との懇談の機会を持ち、なお、農村の家庭や住宅団地の家庭託児所、幼稚園等にも訪問する機会があったが、いずれも短い時間であった。

十億余人、面積九百九十六万六千平方キロに人口世界第一位、面積第三位を擁し、五〇余の多民族からなる中国の古い歴史とスケールの大きな遺跡や施設あるいは国内事情等を僅か十日間で詳しく見ることは到底無理なことである。

私たちは、現地(中国)のガイ

今度の視察研修は、専門的調査研究と異なり、中国という国を直に見て、直に現地の人たちと接することによって中国を理解し、友好を深めることが主な目的であった。その意味では、所期の目的は達成されたものと思う次第である。以下、日程を追って旅行の概要と雑感を述べることにする。

香港

10日(金) 12時15分日航機で那覇発、14時35分香港到着。マンキン油の御本家(屋敷)、ビクトリアパーク展望台、浅水湾(ビーチ)等の市内を視察、水上レストラン(珍宝)にて夕食。

食後、百万ドルの夜景、香港市内を眺め、カーフェリーにて香港島の夜景を見て、香港は、イギリスの統治下にあつて自由主義体制における「良い面と悪い面」が如実に現われているように感じた。また、一九九七年の中国返還が決まり、香港社会は「不安や思惑あるいは夢や希望」等々がうずまいていっているのではなからうか、という感じもした。

北京

11日(土) 9時ホテル出発、空港へ、13時50分中国民航機で香港発北京空港へ到着(18時50分)。途中天津空港で17時半頃夕食。20時中国国際旅行社のガイドの案内でホテルへ向う。21時ホテルに到着。北京市、人口九六〇万人。

12日(日) 9時ホテル発、車窓から北京市内を眺めつつ「万里の長城」へと走る。市内の交通事情は、道幅は広いが、洪水のように流れる自転車群、所かまわず横断する人々、その間隙をぬって自動車が行くという有様。通行区分線や歩道標示はあるものの、人々はそれを無視している様子である。自転車主流の生活習慣や都市に集中している人間があまりにも多すぎてその対応に苦慮しているのではなからうか。

市内の街路樹「ポプラ並木」は、見事なものである。「長城」に登った一行は、いったい何を感じたであろうか、遠く古



秦の始皇帝が完成させたといわれる万里の長城で

あるまい。

この長城は、二五〇〇年頃前、封建各国による長城建設が始まり、それを整備拡張して結びつけたのが、秦の始皇帝(在位前二二一〜二一〇年)とされている。北方の遊牧民族の侵入に對して造られるもので、山の尾根から谷へ、谷から尾根へと渡り、延々と蛇行しながら東西に延びる。その長さは、六二八〇キロに及ぶ。

一行は、近くで昼食をとり、一腹、午後、長城を後にして明の十三陵に向う。私たちは、十三陵の一つ「定陵」および「長陵」を視る。特に定陵は、大理石造りの地下宮殿であり、感嘆するのみである。この十三陵は、明朝十七代皇帝のうちの十三人の墓だといふ。夕食後、国際音楽団にて中国で一流の「中国民族歌舞団」の古典音楽を観賞する。そのすばらしさに場内は拍手の連続だった。

13日(月) 9時市内視察、故宮博物院へ。故宮博物院は、明、清二代の皇帝で明の永樂四年(一四〇六年)に創建、同一八八年に完成、その後、しばしば改築、再建をかさね、五百余年の歴史をもっている。敷地は、七二万平方メートルに及ぶ。宮殿の建築物は二六万平方メートルに及ぶ。この金碧かがやく古代建築群は中国の古代建築のす

くれた伝統と独特な風格を表現している。天安門広場を散策。この広場は、中心的な十字路にあつて、明朝以来の古い歴史をもち、適時拡張され、現在では、四〇ヘクタール(二二万一千坪)あるそうだ。一九四九年一月一日、毛沢東は、この広場で中華人民共和国の独立宣言をしたらしく、そのことを「解放」とも呼ぶそうである。以後、主な儀式は、この広場で行われるらしいが、広場と東西の長安街を合わせ一〇〇万人を収容できるといふから想像を絶する程である。

ところで、大群衆時の便所はどこでということだが、正方形の広場の一辺の外側を通る歩道の下は、下水溝があつて、平日はきちんとフタが置かれていて、いざという時にそのフタを取り除くと数百人が同時に使用できる簡易便所が出来る仕組みである。

14日(火) 6時ホテル発、南苑空港へ。7時50分軍用特別機にて南京へ向う。9時45分南京空港に到着。南京市、人口約二百万人。蘇州から揚子江を遡ると南京に至る。そこは、古くから三朝時代、南北朝時代とも首都であったらしい。一九二二年の中華民国の成立では、初代臨時大統領の孫文が政府を置いていたそうであり、また、国民党の蔣介石も一九四九年までここに政府を置いていた所である。

南京市の北西には、長江(揚子江)が流れ、一九六八年に長江大橋が架けられ、新中国建設の大動脈的役割を果たしているようであ

る。「南苑」は、揚子江を流れるところ、長江を本流とするいくつかの川が流れ、舟をもつて交通手段としての様子が見られる。長江大橋は、道路橋が四五八九メートル、鉄道橋が六七二メートルで新中国自立更生の象徴として中国の南北を結ぶ大動脈である。南京市内の街路両側にはプラタナスが植えられこの枝が両側から延びて交錯し、このトンネルのような並木は絶賛に値するものである。

昼食後、南京中山門外首宿宛村を訪問。人口、九百人。この村は農地一三ヘクタールのほか、牛乳工場、食品工場、ホテル等を管理運営している。村に対して「郷」上部機関から作目や生産目標量の指示があり、目標達成のために村長を中心に村民は一岩となつて働くとの事である。労働に対する賃金の分配を受け、目標を上回った分については、奨励金が支給されるので、層層と励む。さらに農民には、自留地(一人あたり一〇平方メートル)という自由地が認められそこで生産された作物は、すべて本人のものとなる。

その後、靈谷寺(一三八一年建立、中山陵(中国革命の父)孫文の墓)を視察。夕食後、南京の芸術小学校の子供たちで構成する「小红花芸術団」による各種楽器の演奏等に感嘆する。

15日(水) ホテルを發つて、玄武湖公園へ、雨のためバスの窓から眺める程度だった。10時過ぎ、南京駅に到着。11時20分頃、列車で上海へ向う。列車は重量感がある、幅が広く、座席は、ゆったりして乗心地は良好である。車外は、見わたす限り平野にして田畑あり、果樹園あり、貯水池ありほとんど同じ景色が続く。約三百キロの道程を走り続け、16時に上海駅に到着する。

(西原町長「平安恒政執筆」)
「次号につづく」

14区、13区下し優勝
町体育協会(平安恒政会長)主催の区対抗野球大会が、六月十六日、二十三日、西原中、西原高校、南石油の三運動場で開かれた。大会には十四チームが参加、熱戦を展開、珍プレー好プレーも続出した。

対戦の結果、十四区が十三区を下し優勝した。
なお結果は次の通り。

準決勝
14区 6-4 9区
13区 11-4 1区
決勝
14区 9-4 13区

サンローズが優勝
商工会ポリング大会
町商工会青年部(呉屋政富部長)主催の第四回ポリング大会が六月三十日午後一時から宜野湾ボウルで開かれた。約百人が参加、賑わった。なお、成績は次の通り。

【団体】優勝サンローズ
【個人男子】ハイゲーム新川滋、一位徳田安弘
【個人女子】ハイゲーム金城悦子、大城早苗、一位大城早苗

9区、15区下し優勝
町卓球大会
町体育協会(平安恒政会長)主催の区対抗卓球大会が、七月十四日午前九時から西原中体育館で開かれた。大会には、十チームが参加、熱戦の末、九区が十五区を下し優勝した。

スピード出さずに安全確認を

西原小で「自転車教室」

交通安全教育を推進することにより良い子たちの交通事故を未然に防ごう、と西原小学校（喜屋武清校長）では、七月十日午前、全校児童を対象に、交通安全教室を開いた。浦添警察署と浦添地区交通安全協会の協力を得て、四年生以上を対象として学年別に校庭（信号機等も設置）で自転車の正しい乗り方について指導を行った。写真。



同校の全校児童を対象としたアンケート調査によると、自転車に乗れる子が八七・五％、自転車を所有している子が四七・六％。同校では、この事実を重視し、日ごろから自転車の正しい乗り方を身につけさせる必要がある、ということから今回の指導を実施した。

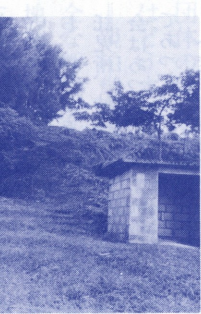
また、その日、三年生以下

小橋川でハブ対策共同作業

区民総出、クリーン作戦に

町ハブ対策条例に基づくハブ対策事業の一環として、小橋川（大嶺盛義区長）では、六月三十日、区民総出（約百人）で殿周辺の大きながりの共同清掃作業を行った。区民は各家庭からナタ、カマ、草刈り機、ノコギリを持ち出し、雑草、雑木の伐採に良い汗を流した。ユンボ一台も出動。

その日、ハブ数匹を退治した。皆の協力でクリーン作戦も成功裏に終わり、殿周辺は見違える程りっぱになった。



殿周辺の部落共同清掃行

の各クラスでは、オーバーヘッド、ビデオ、スライドなどを使って交通安全指導を行った。なお、同校は、永年の交通

本番さながらに避難訓練

万一の火災の時に児童が迅



安全活動等の成果が認められ、県警と県交通安全協会から七月九日に交通安全優良校として表彰された。

また、学校からの通報で東部消防組合から消防ポンプ車も出動し、実戦さながらに放水を始めた。良い子たちにとって体を動かして実際に体験したものだけに有意義な学習となった。

町史に収録しようとして戦争体験座談会を開く

町史に戦争体験を収録しよう、と戦争体験座談会が七月七日午後二時から六時半まで町議会委員室で開かれた。写真。会場には、各区の戦争体験者二十人が出席、収容所の生活、西原への帰還と復興、沖縄戦の教訓などについて話し合った。



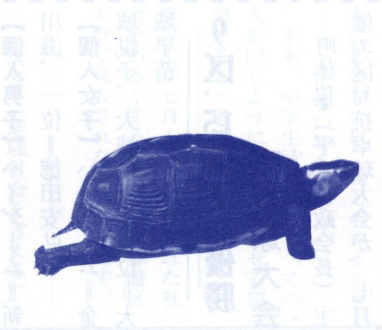
戦争体験座談会

私を見つけたらふるさとに返して下さい

町教育委員会に通報を

セマルハコガメ

このほど、字翁長の道路で迷って歩いている国指定天然記念物の「セマルハコガメ」が保護された。住民からの通報を受けてさっそくこのカメは、町教育委員会から県文化課にリレーされ、生息地の西表島へ送られた。この種は発見保護されたら生息地に返されることになっている。



「亭良佐井」改修盛大に落成式

県営西原団地の宅地造成と建設工事に伴って「亭良佐井（テラサガ）」の保存は地元小波津の区民から心配されてきたが、このほど、県の補助と三善建設の協力によりその改修工事が終わった。

その落成式は、六月三十日午後二時から小波津の区民約八十人が出席して行われ、新装の亭良佐井（屋根、トビラ付）の完成を祝った。写真。



席上あいさつに立った小波津善一区長は「亭良佐井は、七ヶ月干ばつがあっても水を満

親子手作り講習会のお知らせ

越旨 親子で触れ合い、話し合いながら手作りを楽しむ。
主催 西原児童館
日時 8月17日午後2時
場所 西原児童館
対象 小学三年以上の子どもとその親

講師 嘉陽ふく子（サチフラワーデザインスクール院長）
材料費 千五百円
締切 8月15日（木）
問い合わせ 西原児童館
電話 5-4393

女子単、宮平が優勝

夏季テニス選手権

町体協（平安恒政会長）主催の第五回町夏季テニス選手権大会が、六月三十日、七月七日、南西石油テニスコートで開かれた。競技種目は、男女別のシングルスとダブルス。男子二十九人、女子十六人が参加、熱戦が展開された。

- 男子シングルス
新川高志 6-3 上原義人
女子シングルス
宮平恵子 6-1 花城美智子
男子ダブルス
新川 6-2 小橋川
女子ダブルス
優勝 宮平・漢那組 3勝1敗
二位 新川・小橋川組
三位 花城・座喜味組